

衆議院議員

木原せいじ

国会活動報告書

せいじ便り 19号



揺るぎなき挑戦!!

補正予算として景気対策

渡辺喜美元行政改革大臣、塩崎恭久元官房長官など有志議員とともに、「**補正予算の早期提出**」を求めて活動をしてきましたが、結果として、補正予算の臨時国会への提出は見送られました。厳しい景気状況を考えると、残念なことでした。野党党首が「審議をする」といいながら「**約束を破った**」ことが、今年春先3月にありました。しかも、権威ある衆・参両議長のサインも得ながらです。また、「連立をする」といって約束を破ったこともありました。不信が不信を呼び、総理が「限られた会期では、補正予算を提出しても審議してもらえず、関連法案が廃案にされてしまうかも」と判断せざるを得なかったのは、**不幸なこと**です。

第二次補正予算は1月初旬に提出されることとなりましたが、その間に、景気対策の枠組みが固まってきました。まずは、**税制改正**。次年度税制改正では、**住宅ローン減税の大幅拡充や環境対応型自動車**についての自動車重量税・取得税の減免など、生活に直結した減税措置が多く実現しました。

「バラマキ」との声もありますが、景気が悪いときの減税は当然のことです。税金は、国や社会を皆で支えあって運営するための、会費のようなもの。自治会の会費と同じです（自治会と異なつて、税金には強制力がありますが）。しかし、共同体としての国や社会の前提は、個人や会社がしっかりしていることです。個人の生活や企業の運営が苦しいときには、逆に、国が会費を少し安く

して、**お返し**するのは当然のことです。さて、減税措置に加えて、**金融面の取組み**も進んでいます。既に、金融機関への2兆円の資本注入の仕組み、信用保証協会による20兆円の保証枠、政府系金融機関による10兆円の緊急融資枠、合わせて30兆円の取組みも決定しています。しかし、まだこれでは十分とは言えません。

第一に、政府系金融機関の融資枠を**20兆円に倍増**する必要があります。日本の企業数の99・8%を占め、雇用の半数以上を支える中小・零細企業の借入れは概ね250兆円程度です。借入れ期間が平均3年程度とすると、毎年80兆円程度の資金ニーズがあることとなります。80兆円のうち、とにかく40兆円は国がしっかりと対応しようということです。

第二に、残り40兆円については、銀行やノンバンクなどの民間金融機関に全力で頑張ってもらおうこと。ノンバンクは別として金融機関は、預金を預かって、貸し出すことで免許を受けています。だからこそ、預金の保護、公的資本の注入などの措置が取られるわけです。その金融機関が、**貸し渋りや貸し剥がし**をすれば、それは公

■木原せいじ公式
モバイルサイト
<http://kiharaseiji.com/k/>



携帯電話から木原せいじモバイルにつながります。木原せいじの日々の活動をブログにて公開中。

無駄撲滅PTで見えてきたこと

的使命に反しています。そこで、各金融機関に対し、預金がどの程度貸し出しに回っているかを示す**預貸比率の目標値**を設定し、自助努力を促すとともに、その自助努力に対し、金融機能強化法による資本注入、利子補給金の提供などの公的支援を実施すべきです。

自民党の税金の無駄遣いプロジェクトチームの事務局長補佐として、春先から各省庁の無駄遣いに切り込んできました。その仕上げが、**政策棚卸し・事業仕分け**で、各役所の一つ一つの政策について、継続すべきか、民間や地方に委ねるべきか、予算を縮小すべきか、などを検証する作業です。

一つの役所について、30時間程度をかけ、**一般の方の参加も募集して、全面公開**で、「役所側」と「現場の有識者も交えた議員側」とが、議論を繰り返す作業を行いました。国レベルでは**初の試み**。そのやり取りの一部が以下のものです。

役所： 環境教育について先進的で効果的な方法を検討するため、全国200箇所モデル事業を全額国負担で行っています。

PT： そうですか。それはいいことですね。ところで、200箇所で行ったモデル事業の結果は、どのように検証しているのですか。どこの事業が一番効果を上げ、どこは挙げられなかったか？その結果は公表されていますか？200のモデル箇所から

全国中に展開するための財源はどうなっていますか？
役所： 事後的検証は特別には行っておりません。200箇所から提出されるレポートを一冊にまとめて公表していますが・・・。全国展開については、財源の目処がつかないので、今後検討します。
PT： ただ単にレポートを一冊にまとめるだけでは、検証になりませんね。また、全国に展開するのが目的でモデル事業を始めているのに、全国展開のための財源を確保しないままスタートさせたのでは、モデル事業そのものが無駄になってしまいますね。

このやりとりで分かることは、「無駄遣い」とは少し違うかもしれませんが、日本には、「予算を取る」仕組みはあっても、「**予算が効果的に使われたか**」を検証する仕組みはないということです。どの政党も「予算を増やすこと」に血眼になっているのです。

だからこそ、予算を事前規制型から**事後チェック型**に変更していくことが不可欠なのです。これこそ、日本を180度転換する切札です。実際、イギリスもカナダもフランスもドイツも、複数年度予算や事後チェックシステムの導入など予算制度改革を行っています。

「予算の聖域を作ってはいけない」といいますが、「予算そのものが聖域であってはいけない」のです。

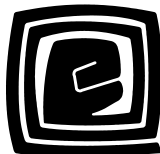


中小・零細企業資金繰り救済プログラムを取りまとめ関係各所に提言

木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議員第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106



For your smile

ボランティアを募集しています!

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。

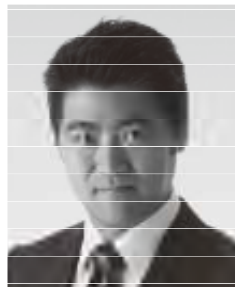


国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



木原せいじプロフィール



- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)